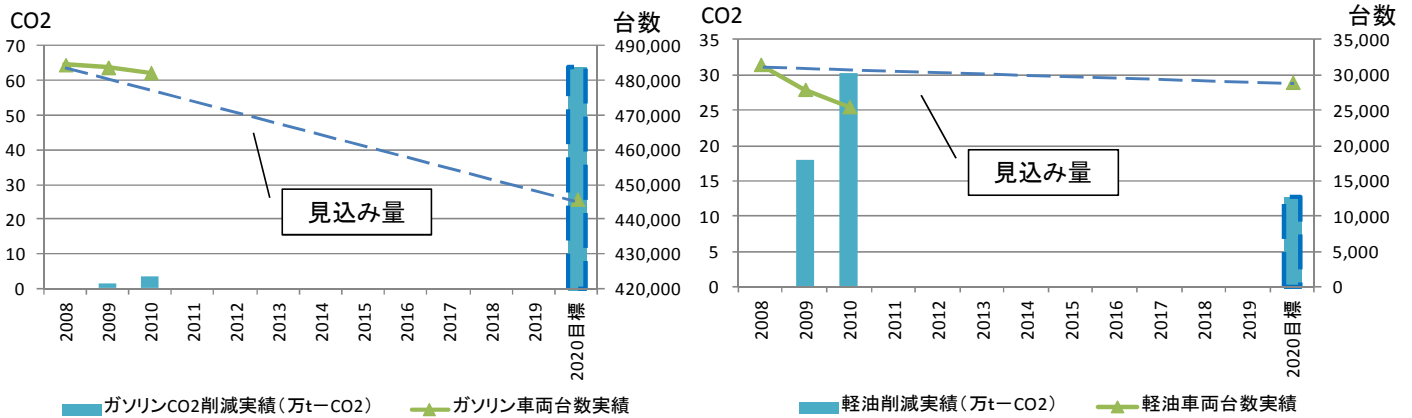
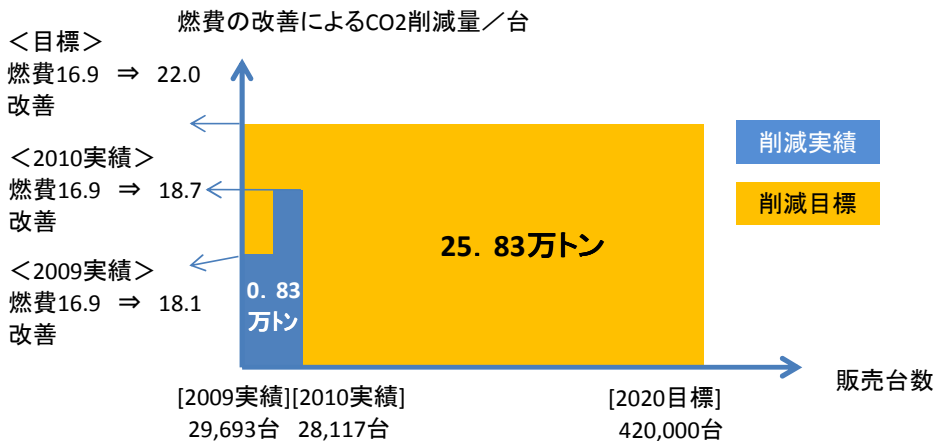


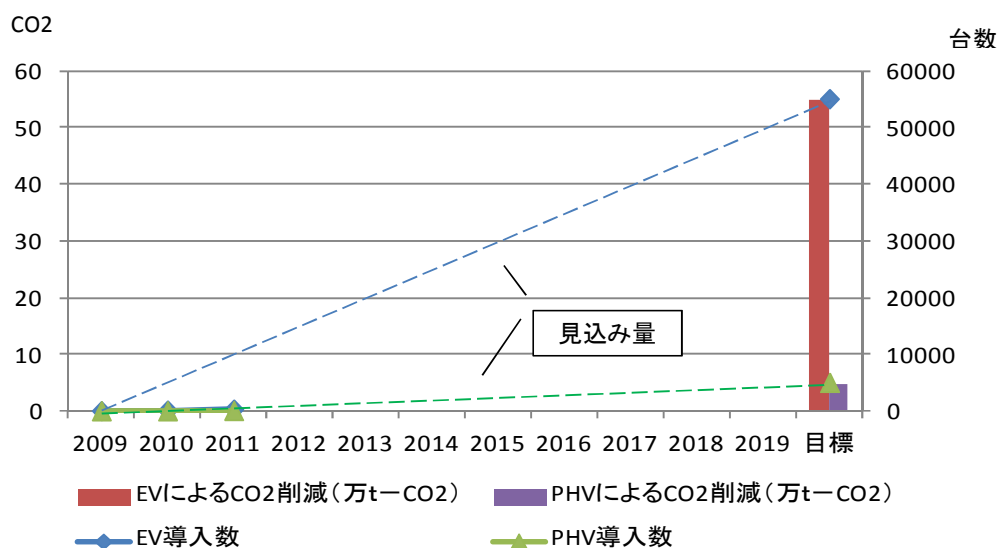
部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度基準値 → 最新年度実績値 (年度)			2020(平成32)年度目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合
			2008(平成20)年度基準値	→	最新年度実績値				
運輸	市内自家用車保有台数	万台	51.6	→	50.8	2010	34.0	76.8	44.3%
評価	算定方法の見直し 実績のトレンドが見込みを上回っている。	算定方法	①ガソリン車(軽, 普通, 軽貨物, 小型貨物車両) $1\text{台当たりのCO}_2\text{排出量}(2008\text{年}, \text{CO}_2\text{排出量}/\text{台数}) \times \text{減少車両数} = \text{ガソリン車削減量}$ ②軽油車(普通, 小型貨物車両) $1\text{台当たりのCO}_2\text{排出量}(2008\text{年}, \text{CO}_2\text{排出量}/\text{台数}) \times \text{減少車両数} = \text{軽油車削減量}$ ③ガソリン車削減量 + 軽油車削減量 = 削減量						
		目標設定	本市交通政策部局で設定(2008~2020年で8%削減) 削減効果が大きい軽油車両(ガソリン車の約3倍)の減少量が見込みを上まわっていることを踏まえることにより, さらに削減量を見込むことが可能である。						



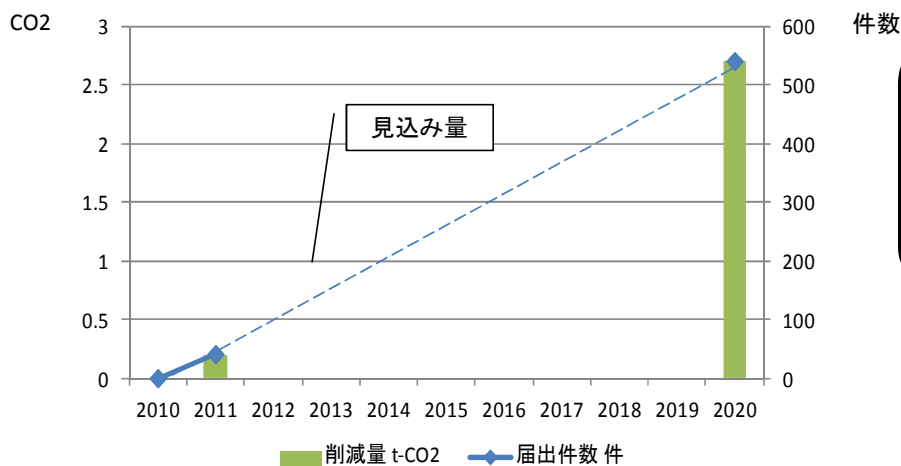
部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度基準値 → 最新年度実績値 (年度)			2020(平成32)年度目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合
			2008(平成20)年度基準値	→	最新年度実績値				
運輸	自動車燃費【販売ベース】	km/L	16.9	→	18.7	2010	8.3	258.3	3.2%
評価	実績のトレンドが計画策定時の見込みと比べて低い	算定方法	①1台当たりのCO ₂ 排出量(2008年, 全CO ₂ 排出量/全台数) × 2008年度からの燃費の改善率 = 1台当たりのCO ₂ 削減量 ②1台当たりのCO ₂ 削減量 × ガソリン車の販売台数(府内販売台数を人口按分) = 削減量						
		目標設定	2020年までに乗用車の燃費を2005年比で約65%改善(バス・トラックは約15%改善)する(中長期ロードマップ)ことを想定(25.575km/L)し, 2009年~2020年の平均値を設定						



部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度 基準値 → 最新年度 実績値 (年度)		2020(平成32)年度 目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合
運輸	電気自動車及びプラグインハイブリッド車の普及台数	台	8	→ 354 2011	60,000	0.40	59.8	0.7%
評価	実績のトレンドが計画策定時の見込みと比べて低い	算定方法	①ガソリン, 軽・普通・軽貨物のCO ₂ 排出量/台 (2008年時点) = 1台当たりのCO ₂ 削減量 ②EV・PHVの導入台数 × 各CO ₂ 削減率(中長期ロードマップ) × 1台当たりのCO ₂ 削減量 = 削減量					
		目標設定	本市自動車環境対策部局で設定(「京都市自動車環境対策計画」から引用)					

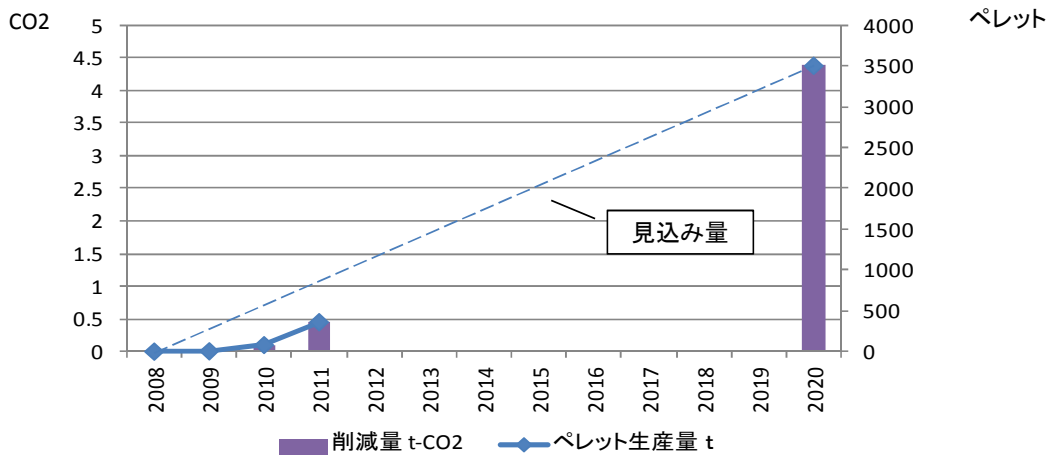


部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度 基準値	→ 最新年度 実績値 (年度)	2020(平成32)年度 目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合
業務	CASBEE京都評価届出件数【非住宅】	件	—	→ 41 2011	540	0.21	2.7	7.8%
評価	<div style="border: 1px solid orange; padding: 2px;">指標に係る動向変化を踏まえた見直し</div> 実績のトレンドが概ね見込みどおり	算定方法	CASBEE京都取得物件の平均削減量5t(仮定) × 届出件数実績 = 削減量					
		目標設定	見込みを目標として設定					



削減見込や目標値設定が、制度運用開始前であるため、実績を踏まえた見直しが可能である。(H23.4から運用開始)

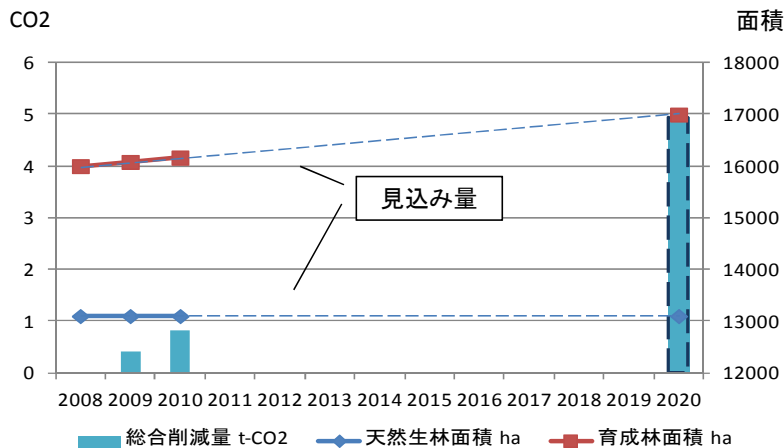
部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度 基準値	→ 最新年度 実績値 (年度)	2020(平成32)年度 目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合
産業業務	地域産木質ペレット利用量	トン	—	→ 361 2011	3,500	0.45	4.4	10.2%
評価	実績のトレンドが計画策定時の見込みと比べて低い	算定方法	生産した木質ペレット ÷ 2 × 灯油の排出係数 = 削減量 ※ペレット1キロの発熱量は灯油1リットルの半分程度(灯油1Lの代替に木質ペレット約2kgが必要)					
		目標設定	京北にある工場の年間生産量3500トンの全量利用を目標として設定					



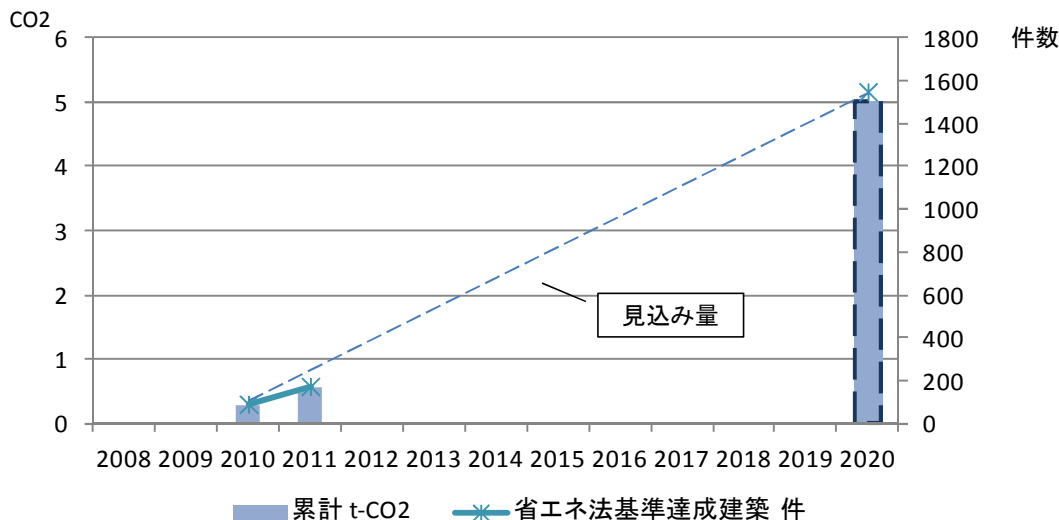
部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度 基準値		→ 最新年度実績値 (年度)	2020(平成32)年度 目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合
全部門	森林面積【天然生林+育成林】	ha	29,100		→ 29,267 2011	30,100	0.8	5.0	16.0%
評価	実績のトレンドが概ね見込みどおり	算定方法	本市林業振興部門において設定						
		目標設定							

<算定方法>
 京都議定書における森林吸収量の算入対象森林
 ●育成林: 森林を適切な状態に保つために1990年以降に森林施業(更新(地拵え、地表かきおこし、植栽等)、保育(下刈、除伐)、間伐、主伐)が行われている森林。
 ●天然生林: 法令等に基づく伐採、転用規制等の保護・保全措置が講じられている森林。

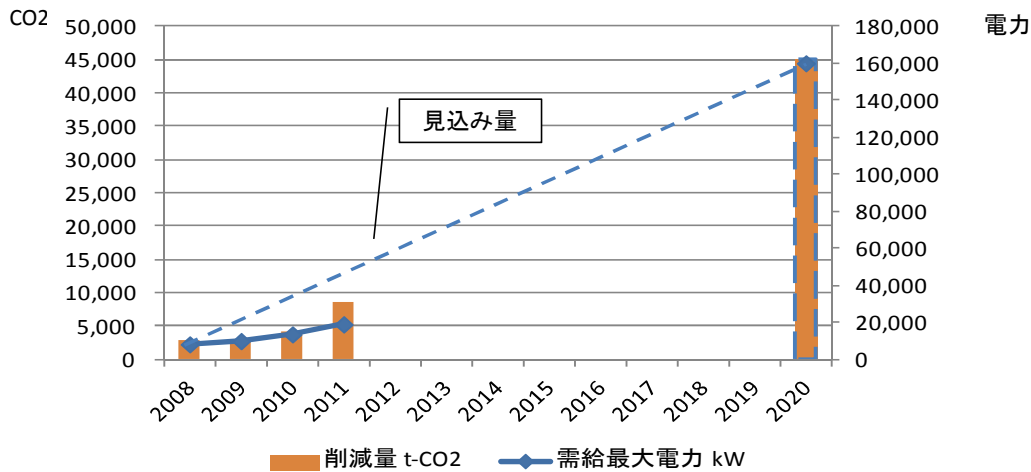
整備実績 × 育成: 1.54t-CO₂/ha, 天然: 4.95t-CO₂/ha(「京都議定書目標達成計画」の森林吸収量の平均(主要樹種の成長量データ等から推計)を乗じて算出) = 削減量



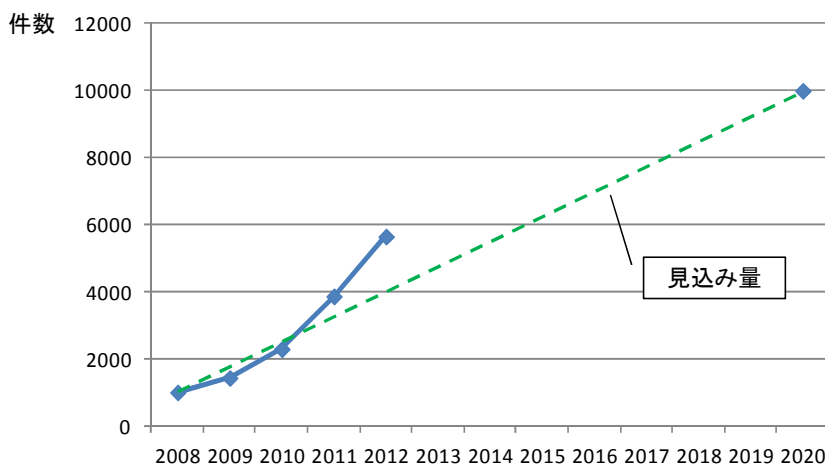
部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度 基準値		→ 最新年度実績値 (年度)	2020(平成32)年度 目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合
業務	新規省エネ法基準達成建築物数【非住宅】	件	-		→ 176 2011	1,550	0.57	5.0	11.4%
評価	実績のトレンドが計画策定時の見込みと比べて低い	算定方法	①冷暖房用原単位(kcal/m ² 、全国の排出量(2007年値で代用)エネルギー・経済統計要覧) × 25%(省エネ基準達成による削減割合。中期ロードマップから) = 1㎡当たりの削減量 ②1㎡当たりの削減量 × 省エネ基準達成件数実績(1,000m ² /件) = 削減量						
		目標設定							



部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度基準値 → 最新年度実績値 (年度)		2020(平成32)年度目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合
産業民生	太陽光発電設備の発電出力	千kW	8.2	→ 19 2011	160	8.60	45.0	19.1%
評価	実績のトレンドが計画策定時の見込みと比べて低い	算定方法	関西電力の受給最大電力(余剰) × 1000kWh(年間発電量) × 電気の排出係数 = 削減量					
		目標設定	2005年実績に対し住宅は20倍, 事業者は85倍(国試算)					



部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度基準値 → 最新年度実績値 (年度)		2020(平成32)年度目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合
産業民生	住宅用太陽光発電設備の設置戸数	戸	1000	→ 5657 2012	10000	-	-	-
評価	指標に係る動向変化を踏まえた見直し 実績のトレンドが見込みを上回っている	算定方法	本市の住宅用太陽光発電設備設置助成件数					
		目標設定	10倍					



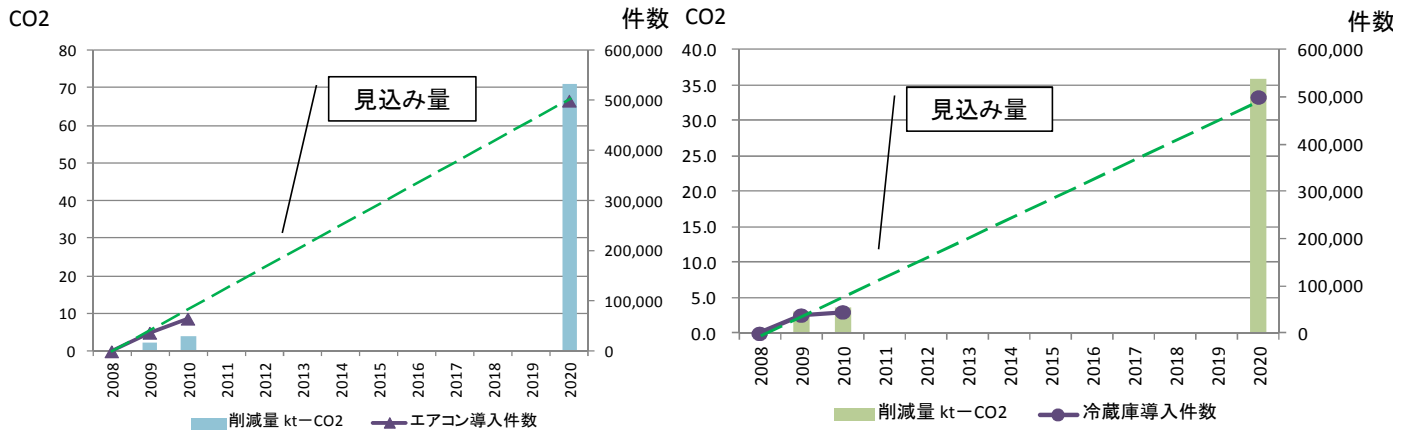
固定価格買取制度の開始などの国の動向や本市取組の強化等により、目標値の上方修正が可能

部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度基準値 → 最新年度実績値 (年度)		2020(平成32)年度目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合	
全部門	その他再生可能エネルギーの導入量	TJ	500	→	—	1,100	—	30.2	—
評価	実績のトレンドが概ね見込みどおり	算定方法							
		目標設定							

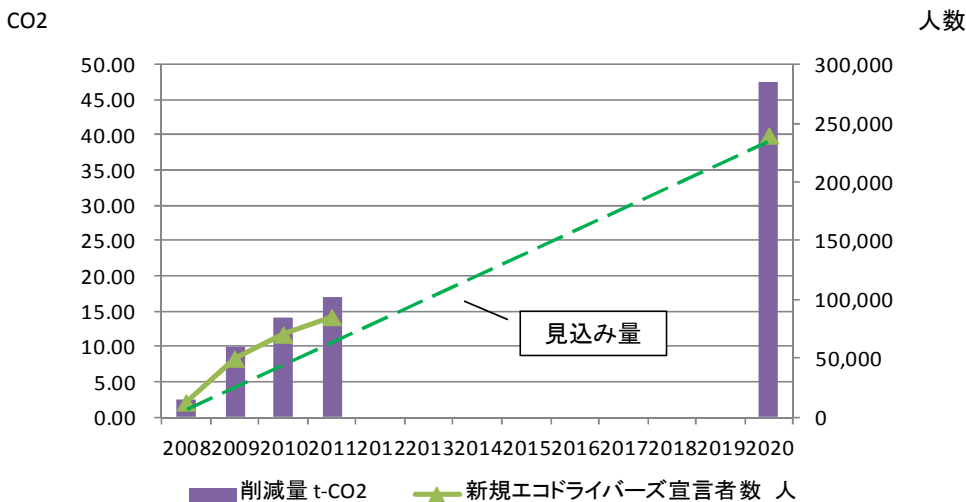
※ 「(3) 再生可能エネルギーなど地域分散型エネルギーの普及促進」において詳述

部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度基準値 → 最新年度実績値 (年度)		2020(平成32)年度目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合
家庭	高効率家電製品の普及台数【エアコン, 冷蔵庫】	万台	—	→ 11.0515 2010	215	7.40	107.0	6.9%
評価	算定方法の見直し 実績のトレンドが概ね見込みどおり	算定方法	①1世帯当たりのCO ₂ 排出量(2008) × 空調(20%)割合 or 冷蔵庫(10%)割合 = 各設備に係る排出量 ②各設備に係る排出量 ÷ 1世帯当たりの設置台数(3, 1.3) × 1台当たりの各削減率(30%, 30%, 中長期ロードマップなど) = 1台当たりの削減量 ③1台当たりの削減量 × 導入件数 = 削減量					
		目標設定	導入件数は概ね全世帯の75%が12年間で1台更新する設定					

本市独自アンケート等の実施により, 実態をより反映した算定方法の確立を目指す



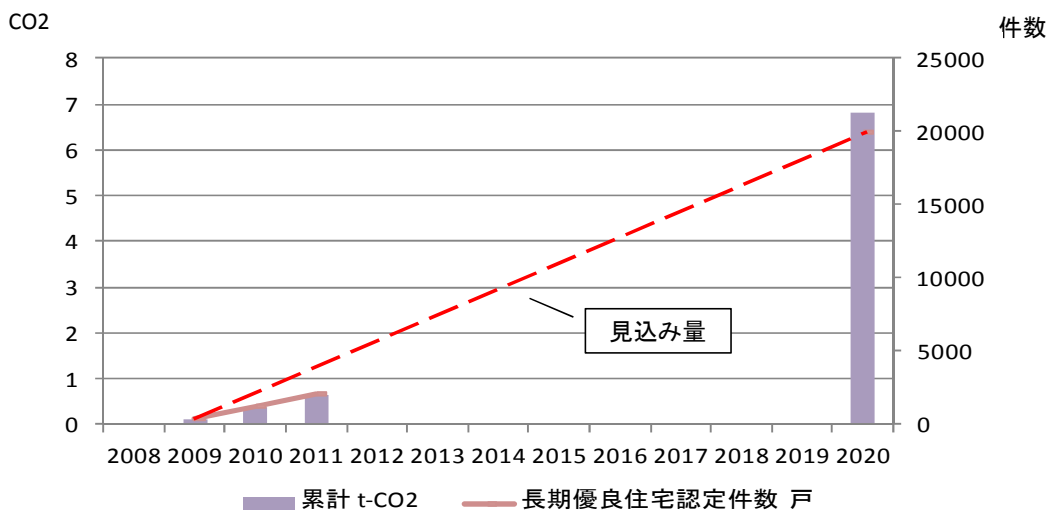
部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度基準値 → 最新年度実績値 (年度)		2020(平成32)年度目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合
運輸	エコドライバーズ宣言者数	万人	1.3	→ 8.6 2011	25	17.00	47.5	35.8%
評価	実績のトレンドが見込みを上回っている。	算定方法	自家用ガソリン車1台あたり排出量(2008年) × エコドライブによる削減率12%(京都市調べ) × 宣言者数 = 削減量					
		目標設定	年間2万人×12カ年(自動車環境管理部局において設定)					



部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度 基準値		最新年度 実績値 (年度)	2020(平成32)年度 目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合
			→	→	→				
全部門	エコ学区における削減量測定の前定世帯数	世帯	—	→	—	1,400	—	0.3	—
評価	指標に係る動向変化を踏まえた見直し	算定方法							
		目標設定	14学区 × 100世帯						

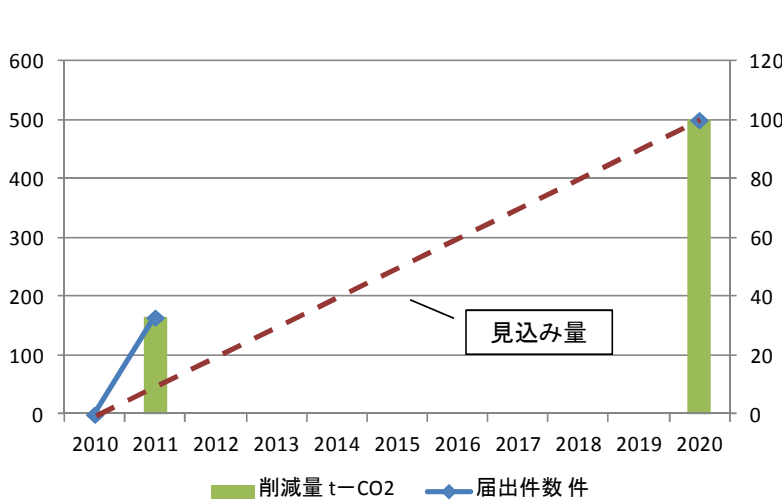
平成25年度から3年間で全区展開(全222学区)を予定しており, 削減見込及び目標値の上方修正が可能

部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度 基準値		最新年度 実績値 (年度)	2020(平成32)年度 目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合
			→	→	→				
家庭	長期優良住宅認定件数	件	—	→	2130 2011	21,000	0.64	6.8	9.4%
評価	実績のトレンドが計画策定時の見込みと比べて低い	算定方法	①1世帯当たりのCO ₂ 排出量 × 空調の割合(20%) × 削減割合61%(中長期ロードマップ) = 1世帯当たりの削減量 ②1世帯当たりの削減量 × 実績件数 = 削減効果量						
		目標設定	平成21年度実績(京都府, 1068件)の約2倍弱(1666件×12カ年)						



部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度 基準値		最新年度 実績値 (年度)	2020(平成32)年度 目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合
			→	→	(年度)				
家庭	CASBEE京都評価届出件数※2,000m ² 以上集合住宅	件	—	→	33 2011	100	0.17	0.5	34.0%
評価	指標に係る動向変化を踏まえた見直し 実績のトレンドが見込みを上回っている。	算定方法	CASBEE京都取得物件の平均削減量5t(仮定) × 届出件数実績 = 削減量						
		目標設定	見込みを目標として設定						

CO2

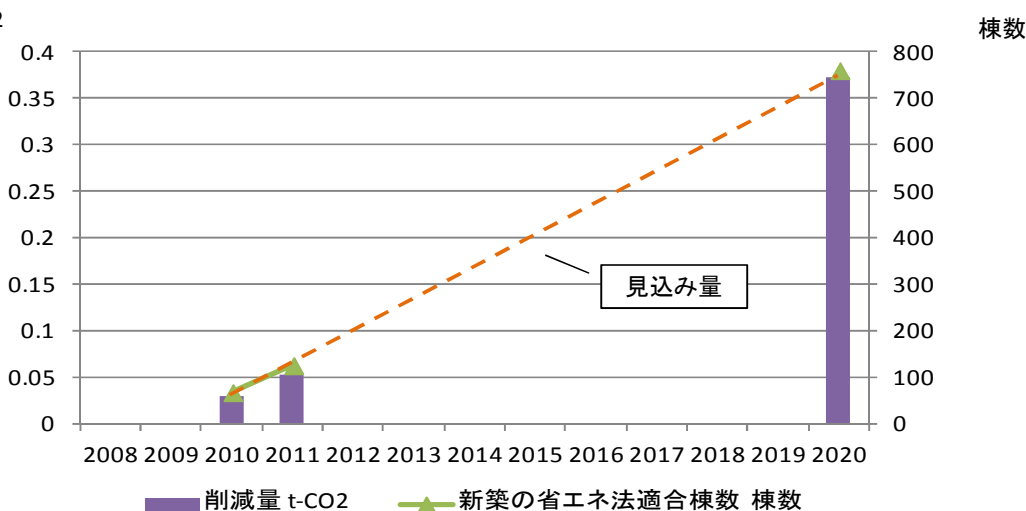


件数

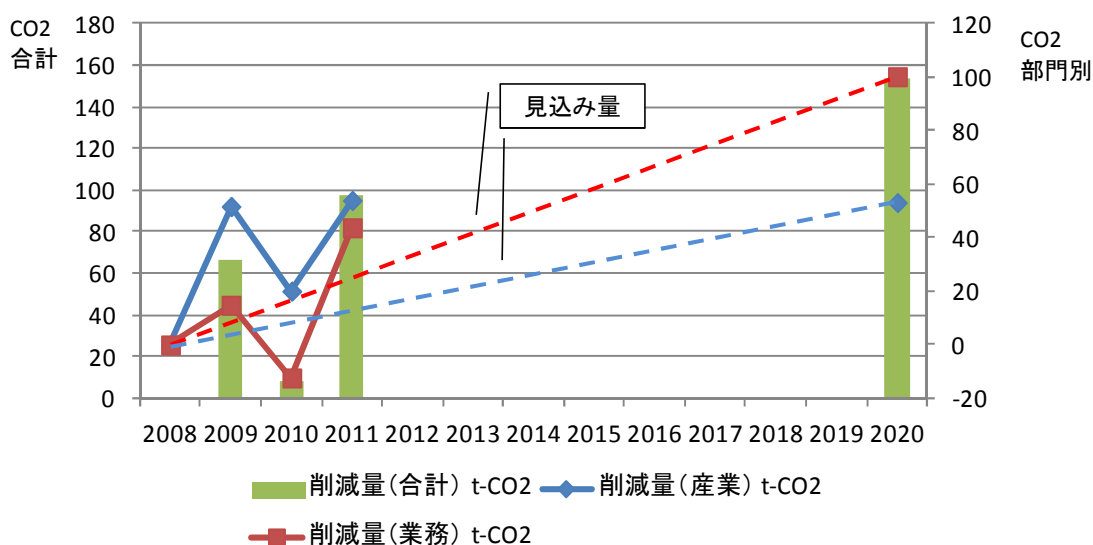
削減見込や目標値設定が、制度運用開始前であるため、実績を踏まえた見直しが可能である。(H23.4から運用開始)

部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度 基準値		最新年度 実績値 (年度)	2020(平成32)年度 目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合
			→	→	(年度)				
家庭	新規省エネ法基準達成建築物数※300-2000m ² 集合住宅	件	—	→	125 2011	760	0.50	3.7	13.5%
評価	実績のトレンドが概ね見込みどおり	算定方法	①1世帯当たりのCO ₂ 排出量 × 空調割合(20%) × 削減割合61%(中長期ロードマップ) = 1世帯当たりの削減量 ②省エネ基準達成件数1棟1,000m ² ÷ 1世帯当たりの床面積70m ² = 1件当たりの世帯数 ③1件当たりの世帯数 × 世帯当たりの削減量 × 省エネ基準達成件数 = 削減効果量						
		目標設定	省エネ基準達成件数は平成22年度実績(適合63件) × 12カ年						

CO2



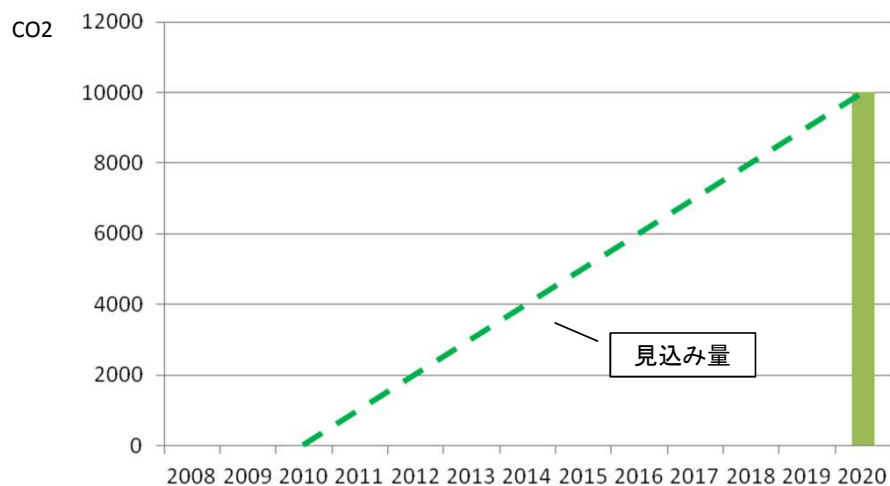
部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度基準値 → 最新年度実績値 (年度)			2020(平成32)年度目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合	
			2008(平成20)年度基準値	→	最新年度実績値					(年度)
産業	特定事業者制度報告書における総排出量	万トンCO ₂	53.2	→	42.1	2011	47.9	54.00	53.2	101.5%
業務	特定事業者制度報告書における総排出量	万トンCO ₂	100.3	→	97	2011	90.2	43.80	100.3	43.7%
評価	実績のトレンドが見込みを上回っている。	算定方法	事業者からの報告書のとおりで、2008年(基準年)からの削減量。ただし、各計画期間(3年)で係数が異なることから、連続性をもたせるため、一旦各計画期間で各基準年からの削減量を算定し、計画期間の直前年度で達成できていた2008年からの削減量を足し合わせる。							
		目標設定	産業と業務合計で10%削減							



部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度基準値 → 最新年度実績値 (年度)			2020(平成32)年度目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合	
			2008(平成20)年度基準値	→	最新年度実績値					(年度)
家庭業務	高効率給湯機器の普及台数	万台	3.8	→	5.6	2011	30	0.30	48.6	0.6%
評価	指標に係る動向変化を踏まえた見直し	算定方法	①1世帯当たりの排出量 × 給湯に係る排出割合 = 給湯に係る排出量 ②給湯に係る排出量 × 各機器の削減率 = 各1台当たりの削減量 ③1台当たりの削減量 × 各普及台数 = 削減量							
		目標設定	本市予測値							

建築物に対する省エネ対策強化など国の動向や本市取組の強化等から、目標値及び削減見込の上方修正が可能

部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度基準値 → 最新年度実績値 (年度)			2020(平成32)年度目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合
全部門	クレジット化された削減量	万トンCO ₂	—	→ 0.016	2011	1.0	0.20	10.0	0.6%
評価	算定方法の見直し	算定方法	実績の積み上げ						
	実績のトレンドが計画策定時の見込みと比べて低い	目標設定	毎年新規にクレジット認証量1000トン分のプロジェクトを開始する。						



DO YOU KYOTO? クレジット以外の、国等のクレジット制度も進んでおり、これらの実績算入が検討できる。

部門	削減効果指標	単位	2008(平成20)年度 基準値 → 最新年度 実績値 (年度)			2020(平成32)年度 目標値	削減量 (千トンCO ₂)	削減見込 (千トンCO ₂)	進捗割合
廃棄物	市処理施設における廃プラスチックの受入量	万トン(ごみ量)	5.3	→	4.5	2011	17.70	72.2	24.5%
評価	実績のトレンドが概ね見込みどおり	算定方法	市処理施設における廃プラスチックの受入量 × 排出係数 = 削減量						
		目標設定	本市最多ごみ量(H12)からごみ全体を半減						

